

## 平成 21 年度臨時（第 1 回）理事会議事録

日 時： 平成 21 年 4 月 11 日（土） 14：00～17：00

場 所： 岸記念体育会館 504 会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光（委任：河野博文）、河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松真、前田彰一、青山篤  
（委任：前田彰一）、児玉萬平、斉藤涉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千  
鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：児玉萬平）、小山利男、外山昌一、柴沼克己、坂谷定生、  
山下記誉、吉田豊、宮崎史康、中村公俊、奥村文浩（委任：前田彰一）、吉留容子、金井寿  
雄 以上 27 名、内委任状 4 名

出席監事：高木伸学、浪川宏、栗原博 以上 3 名

オブザーバー：昇隆夫国体委員長、増田開ルール委員長、山川雅之医事科学委員長、鈴木  
保夫外洋総務委員長、林賢之輔外洋計測委員長

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 4 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数  
を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光会長欠席のため、河野博文副会長が会長代行で  
議長となり、平成 21 年度臨時（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専  
務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、斉藤涉、吉留容子の両理事が任命  
された。

（山崎会長挨拶）山崎会長体調不良のため、河野副会長から挨拶があった。新役員となら  
れた方は最初の理事会であるが、連盟活動に全力を尽くしていただきたい。平成 21 年度予  
算において、メンバー会費値上げを承認いただいたが、今年は財政基盤を確立していきた  
い。来る 4 月 17 日、IOC 視察団が東京若洲のセーリング会場を視察に来るので、各位にお  
かれては会場にお運びいただき、盛り上げていただきたい。なお、本評議員会での重要案  
件等の審議をお願いしたいとの挨拶があった。

### < 審議事項 >

#### 1) 平成 21・22 年度名誉総裁・名誉会長・顧問・参与

前田専務理事から資料に基づき、平成 21・22 年度名誉総裁・名誉会長・顧問・参与  
について説明があった。

名誉総裁の高円宮妃殿下、名誉会長の秋田博正氏、顧問の米澤一氏・小田切満寿雄氏、並木茂士氏、戸田邦司氏、参与の大谷たかを氏、戸張房子氏、鈴木保夫氏は継続、岩田行史氏が参与に新任したとの発言があった。

承認された。

## 2) 平成 21・22 年度 JSAF 組織 (委員長)

前田専務理事から資料に基づき、平成 21・22 年度 JSAF 組織 (委員長) について説明があった。

総務・広報グループとして、総務委員会委員長に庄司一夫氏 (新任)、財政委員会委員長に斎藤渉氏 (新任)、事業委員会委員長に青山篤氏、事業開発委員会委員長に松原宏之氏 (新任)、広報委員会委員長に柳澤康信氏 (新任)、環境委員会委員長に岡田達雄氏、レディース委員会委員長に倭千鶴子氏。競技推進グループとして、ルール委員会委員長に増田開氏 (新任)、レース委員会委員長に黒川重男氏 (新任)、ODC 計測委員会委員長に末木創造氏、指導者委員会委員長に小山泰彦氏、国際委員会委員長に戸張房子氏、医事・科学委員会委員長に山川雅之氏、ドーピング裁定委員会委員長に棚橋善克氏。普及強化推進グループとして、普及委員会委員長に水谷益彦氏、国体委員会委員長に昇隆夫氏、オリンピック特別委員会委員長に山田敏雄氏、競技力向上委員会委員長に箱守康之氏、ジュニアアカデミー委員会委員長に中村公俊氏 (新任)、東京オリンピック招致委員会委員長に山崎達光氏。外洋艇推進グループとして、外洋総務委員会委員長に鈴木保夫氏、外洋計測委員会委員長に林賢之輔氏、外洋安全委員会委員長に浪川宏氏、アメリカズカップ委員会委員長に山崎達光氏との発言があった。

柴沼理事から、浪川監事の外洋安全委員会委員長兼務について問題はないかとの発言があった。

栗原監事から、責任者として位置づけられることは問題ないが、組織的・対外的に問題になると発言があった。

児玉常務理事から、外洋安全委員会の重要な業務に特別規程(SR)に関することがある。後任委員長を含めて引継等を指示してはいるが、現状では適任者の該当がないため様子をみていただきたいとの発言があった。

河野副会長から、外洋安全委員会業務上監査については、浪川氏には関与しないことと了承していただきたいとの発言があった。

高木監事から、事故が起きたときに利益相反になることから、できるだけ早急に委員長を交代するべきであるとの発言があった。

小山 (泰) 理事から、安全指導者講習会でご協力をいただき、外洋安全の権威でもあることから、余人に変えがたいとの発言があった。

前田専務理事から、各委員会委員の提出依頼があった。

承認された。

### 3) 評議員の変更について

前田専務理事から資料に基づき、評議員の変更について説明があった。

鹿児島県セーリング連盟の林雅一氏から大迫哲弘氏に変更、外洋東関東の横田光男氏から小屋忠史氏に変更の提出があり受理したとの発言があった。

承認された。

### 4) 規定の改定(役員の報酬・退職金および費用弁済に関する規定)

庄司理事から資料に基づき、財団法人日本セーリング連盟役員の報酬・退職金および費用弁済に関する規定の改定について説明があった。

提案理由は、3月15日評議員会において前田専務理事が事務局長兼任の承認を受けて、常勤役員に報酬等を支払うために規定を改訂する必要がある。付則に「第2条2項および第3条2項は、平成21年4月1日以上は適用しない」を追加するとの発言があった。

栗原監事から、役員に報酬を支払うような解釈にもとれることから、あえて規程を改定する必要はないとの発言があった。

河野副会長から、専務理事の業務は現状通りで、事務局長として報酬ではなく給与支払と理解できることから、役員の報酬・退職金および費用弁済に関する規定の改定は不要であるとの発言があった。

高木監事から、事務局職へは給与支払、専務理事職は報酬と理解で問題ないとの発言があった。

庄司理事から、前田専務理事は役員としてではなく、事務局長としての給与支払で今規定改定は必要ないという理解で問題ないとの発言があった。

前田専務理事の議決権なしで、審議事項(4)は却下した。

## <協議事項>

### 1) レースオフィサー規定の改訂

松原レース委員から資料に基づき、レースオフィサー規定の改訂について提案があった。主な改正は、レースオフィサー規定第4条の受験のための資格要件において、

NROの下限年齢を28歳に引き下げる、ARO下限年齢を20歳に引き下げる、CROの年齢制限を撤廃する、NROおよびAROの上限年齢(65歳)の撤廃、NRO資格要件「レース運営経歴」の見直し、ジャッジ資格取得要件を撤廃する。これは会員増強の連盟基本方針に呼応した施策である。また、第5条および第8条の認定手続きにおいて、「手数料」の後に「認定料」を追記し、事務処理要項に「認定料500円、

手数料 1,000 円」と明記したとの発言があった。

吉田理事から、メンバー増強ならびに資格取得者の維持確保は理解できるが、NRO および ARO の上限年齢（65 歳）撤廃は、現場での活動において体力が必要であることからいかがかと質問があった。

柴沼理事から、ISAF では企画マネジメントするのがレースオフィサーである。JSAF レース委員会において、海上運営とマネジメントで分ける必要がある。年齢制限については問題ないと理解できるとの発言があった。

柴沼理事から、外洋レースでは外洋レースマネジメントと整合を図るために当分の間適用しないことを明記するべきである、講習会マニュアル販売は、事業委員会を通して販売することも考慮いただきたい。JSAF ホームページ掲載は賛同する。認定料は他委員会とも調整を図るべきであるとの発言があった。

秋山副会長から、認定料は各委員会でバラつきがあることから、他資格とのバランスが必要であるとの発言があった。

増田ルール委員長から、B 級ジャッジ認定料表記は 3,000 円（内、手数料 2,000 円）とし、一覧表を作成するとの発言があった。

小山（泰）理事から、資格取得数は NRO 約 120 名、ARO 約 330 名、CRO 約 96 名取得している。資格制度は、価値観と権威の問題である。資格登録はメンバー会費なども負担になるとの発言があった。

宮崎理事から、外洋レースマネジメントマニュアルを至急まとめていただきたいとの発言があった。

児玉常務理事から、平成 21 年度からレース委員会の中に外洋レース委員も参画して活動する。昨年、外洋グレード制を設定したが内容の精査が必要である。外洋危機管理マニュアル版は現存するが、外洋レースマネジメントマニュアルについては、担当者を決めて至急作成にとりかかりたいとの発言があった。

柴沼理事から、ISAF では SR 規定しかないことから、JSAF で早急に外洋危機管理マニュアルを作成して ISAF へ送付することも考慮いただきたいとの発言があった。

## 2) メンバー登録 学生の範囲

庄司理事から資料に基づき、平成 21 年度メンバー登録（大学生の取り扱い）について提案があった。3 月評議員会において、大学生の適用範囲について混乱があったことを受けて、本理事会において大学生の定義を再確認する。大学生とは入学から 4 年間を示し、5 年目以降の在籍学生は一般メンバーとする。対象となる大学生は、学校教育法に定められた大学・国または独立行政法人が設置する大学校・公立または私立の短期大学、大学に 5 年以上在籍している大学生や修士・博士課程の大学生、各種学校・専門学校の生徒は、一般メンバーとする。なお、加盟団体等における登録は、メンバーからの自己申告により登録を認める。以上を理事会の共通認識とし、JSAF ホー

ムページに掲載するとの発言があった。

庄司理事から、平成 21 年度メンバー登録の大学生の定義を再確認した上で、「平成 22 年度メンバー登録に向けた検討課題(案)」を提案する。具体的検討課題は、会員増強の見地から学生の範囲を広げるべきではないか、学生の登録県連はどこにするのか、メンバー登録バックチェックをどこまで行うのか、外洋メンバー登録とディングー系取り扱いを整合させるのか、メンバー登録に関する事務局機能を強化する必要があるとの発言があった。

山川医事科学委員長から、東日本医学生部員は 450 名前後存在する。特別加盟団体に認定されれば、公認レースとして、メンバー増強に貢献できるとの発言があった。

宮崎理事から、学生はアンダー22 以下とするべきではないか。登録内容が複雑となると運用が混乱するとの発言があった。

秋山副会長から、国内学生には留年・浪人もあることから次段階で考慮したいと発言があった。

### 3) メンバー登録 シニア会員

秋山副会長から、シニア(終身)メンバー制度について提案があった。A 級ディングー全日本選手権大会に出場する選手の中には 80 歳以上で参加している大先輩もおられる。JSAF メンバー登録制度や手続き上の問題で、メンバー登録されていない方がほとんどである。そこで、特定年齢以上のメンバーをシニアメンバーとして登録制度を設定できないかとの発言があった。

小山(泰)理事から、松田菊雄様から名誉会員制度(70 歳以上、会費免除)の提案をいただいていると発言があった。

金井理事から、加盟団体へメンバー費の振り分けが必要なのか、JSAF 直轄としての制度化との質問があった。

児玉常務理事から、年齢構成などの基礎データからシミュレーションが必要であるとの発言があった。

外山理事から、加盟団体外洋三浦では名誉会員制度はあることから、連盟で設定すると二重構造となるとの発言があった。

小山(利)理事から、連盟顧問に相談したらいかがとの提案があった。

宮崎理事から、大学 OB は 70 歳以上とされているが、生涯現役希望で寄付なさる方もおられることから、メンバー会費免除は選択制がいいのではないかと発言があった。

栗原監事から、4 年メンバー登録制度も廃止した経緯から、財団法人運営ならびに会計処理上で問題になるのではと発言があった。

柴沼理事から、会員増強委員会での検討は、メンバー会費値上げ決定後は検討されていないのか。現在の議論は、A 級ディングー大会に限定したシニア会員問題と理解し

ている。連盟全体システムで構築するべきであるとの発言があった。

前田専務理事から、今後も引き続きメンバー制度は、財政健全化委員会で検討するとの発言があった。

庄司理事から、財政健全化委員会が、担当委員会等に分離して検討するのか明確にしていいただきたいとの発言があった。

河野副会長から、会員増強は重要な議論である。東京都連では 4 年メンバー登録ができるようになっている。連盟本部のサービス不足を加盟団体が補っていると考慮しているとの発言があった。

前田専務理事から、ご意見を集約して財政健全化委員会で検討するとの発言があった。

#### 4) 理事会のあり方(次回理事会での勉強会・常任委員会への参加)

前田専務理事から、理事会のあり方について提案があった。

秋山副会長から、過去の理事会においては長い時間をかけて議論した経緯があった。各委員会からの報告を重要視し、理事各位も連盟規程等に同理解が必要であることから、次回理事会から勉強会を行いたいとの発言があった。

山田理事から、過去、山崎会長から各委員会報告を理事会で要求されたことがあったが継続しなかったことから、必要であるとの発言があった。

河野副会長から、理事会開催時刻を早めることで対処したいとの発言があった。

金井理事から、理事会の方向性、会議手順、委員会事業内容等、理解したいことから理事会を長く開催していただきたいとの発言があった。

昇国体委員長から、長時間審議しても必ずしも十分な結論が得られていなかったことから時間制限を設けたが、再検討するかは判断を理事各位に委ねるとの発言があった。

庄司理事から、新公益法人制度にも目を向けて検討していきたいとの発言があった。

宮崎理事から、時間をかけて議論することは賛同するとの発言があった。

理事各位から、土曜早くから開催を希望するとの発言があった。

秋山副会長から、常任委員会は理事会提案議題を絞る作業に徹底しているとの発言があった。

前田専務理事から、次回 5 月理事会は 10 時から夢の島マリーナで開催するとの発言があった。

### < 報告事項 >

#### 1) 平成 21 年度基本方針と予算

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度基本方針と予算について報告があった。

2 月理事会において平成 21 年度予算案の一部変更で承認いただいたが、訂正資料を理事各位に配布しないで、3 月 15 日評議員会に提出したことをお詫びします。変更内

容は、退職給付積立金の計上、国体委員会旅費交通費の計上、予備費 300 万円の計上、加盟団体負担金内容をメンバー会費と団体負担金に変更、オリンピック特別会計および環境特別会計の前期繰越金の訂正であるとの発言があった。

## 2) 総務委員会報告

庄司総務委員長から柴沼理事提出資料に基づき、「会議運営ガイドンス」ならびに「委員会運営ガイドンス」の改訂に関する作業部会の設置について報告があった。

柴沼理事から、3月15日評議員会席上で議事進行に混乱をきたした。旧ヨット協会運営では、評議員会席上での委員長発言等の規定があったと理解している。そこで、平成13年制定「日本セーリング連盟会議運営ガイドンス」および「委員会運営ガイドンス」の改訂に関する作業部会の設置について提案するとの発言があった。

庄司理事から、総務委員会で検討したうえで理事会へ提案する旨、回答があった。

## 3) 事業委員会（環境委員会）報告

前田専務理事から、事業委員会および環境委員会報告があった。平成21年7月20日、環境キャンペーンの一環として「海の日」キャンペーンを開催する。「残したいのはきれいな海」のポスターを作成した。各団体イベントに環境バージュを参加者に送付するとの発言があった。

## 4) ルール委員会報告

増田ルール委員長から、ルール委員会報告があった。平成21年度委員長交代について挨拶があった。

## 5) レース委員会報告

松原レース委員から資料に基づき、平成20年度環境キャンペーン補助金交付金額、共同主催・公認・後援願い、平成21年度全日本選手権等セーリング競技日程表について報告があった。

平成20年度環境キャンペーン補助金実績額は1,425,000円である。平成21年度は全日本チームレース選手権およびオリンピックウィークに補助金を交付する。共同主催・公認・後援願いは、1共同主催・2公認大会について認可した。3共同主催・1後援については調整中であるとの発言があった。

## 6) ワンデザインクラス計測委員会報告

前田専務理事から、IHC トレーニングについて報告があった。4月22～23日の2日間、ISAFのIHC規則に基づく、AA資格ならびにIOM資格取得の講習会およびISAF講師招聘をする。講習会に大庭秀夫氏と齋藤愛子氏ほかが出席するとの発言があった。

In-House Equipment Certification/ Authorizing Authority/ Internal Official Measurer

## 7) 指導者委員会報告

小山(泰)指導者委員長から、指導者委員会報告があった。日本体育協会コーチ養成は江ノ島で開催する。全国安全講習会は11月14～15日に東京夢の島マリナーで開催するとの発言があった。

## 8) オリンピック特別委員会報告

山田オリンピック特別委員長から、JOC認定専任コーチングディレクター等の決定およびナショナルコーチ制度について報告があった。平成21年度JOCへ推薦するにあたり、広く人材を求めるために全国に公募を行い、連盟ホームページにも掲載した。1月15日に応募締め切り、連盟認定委員会を設置し、応募書類に基づき認定会議を開催、以下5名をJOCへ推薦した。JOC専任コーチングディレクター(ジュニアアスリート)に重由美子氏・箱守康之氏・高橋航氏の3名、JOC専任情報科学スタッフに斎藤愛子氏、JOC専任メディカルトレーナーに江口典秀氏、その他JOC海外コーチ留学に中村建一氏(英国コーチ留学1年間)である。

また、平成21年度から文部科学省が国際競技力向上のために新規事業として「競技力向上ナショナルプロジェクト」をスタートさせた。2012年ロンドン・オリンピックおよび2016年オリンピックにおけるメダル獲得に向けた中長期的な国際競技力向上を促進する目的である。この制度に、中村健次氏が承認された(これにより平成21年度JOC専任トップアスリート担当は空席となった)。中村氏は平成21年4月1日付けで関東自動車工業(株)より日本セーリング連盟に出向、またアシスタントコーチに大山麗氏も承認されたとの発言があった。

## 9) ジュニアアカデミー委員会報告

中村ジュニアアカデミー委員長から、ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミーについて報告があった。オリンピック特別委員会の協力を得て、27名の指導者をそろえることができた。第1回目は4月12日に葉山マリナーで開催する。30回開催予定から引き続き各水域で協力いただきたいとの依頼があった。

## 10) 東京オリンピック招致委員会報告

河野副会長から、東京オリンピック招致委員会報告があった。昨年ISAF視察があり、東京若洲ヨット訓練所は会場として適当であると評価された。4月17日、IOC13名の視察団の会場視察があり、オリンピック特別委員会・学生連盟・東京都ヨット連盟・外洋東京湾クルーザーメンバーの協力を下、歓迎セレモニーを催した。説明内容は、オリンピック村から非常に近い場所での開催、プレス対応の評価、将来的にセーリング拠点としたい、緑が多く水質が向上している等をアピールしたとの発言があった。

**11) モバイルキャンペーン報告**

児玉常務理事から資料に基づき、JSAF セーラーズ・モバイルキャンペーン報告があった。申込は 50 団体・1,400 台、団体支援金支給総額は 2,162,000 円となった。今後はサポート事務局で電話番号リストを作成するとの発言があった。

**12) 平成 20 年度(3月31日現在)メンバー登録数報告**

松原会員増強委員長から資料に基づき、平成 20 年度(3月31日)のメンバー登録数について報告があった。総合計 10,519 名で前年度比 81 名減との発言があった。

**13) 平成 20 年度通常(第 2 回)理事会議事録(案)**

前田専務理事・事務局長から資料に基づき、平成 20 年度通常(第 2 回)理事会議事録(案)について報告があった。

**14) 平成 20 年度第 2 回評議員会議事録(案)**

前田専務理事・事務局長から資料に基づき、平成 20 年度第 2 回評議員会議事録(案)について報告があった。

**その他**

前田専務理事から、連盟役員名簿ならびに連盟規程集(新役員)の配布があった。新任委員会委員長の挨拶があった。

平成 21 年度臨時(第 1 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 21 年 4 月 11 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 齊 藤 涉

議事録署名人 理 事 吉 留 容 子